

2016年9月 NPO法人わびねす ワークキャンプ報告書



1. ビシュナプールハンセン病コロニーワークキャンプ

1-1. 概要

開催場所	インドウエストベンガル州バンクウラ地区ビシュナプールハンセン病コロニー
活動期間	2016/09/05～2016/09/19
参加者数	日本人学生7人
主なプロジェクト	・ワークプロジェクト ・進学応援プロジェクト ・エンターテイメントプロジェクト
協力・支援団体	・笹川記念保健協力財団 ・Friends of Poor and Socially Abandoned (FPSA) – Bankura

1-2. ビシュナプールハンセン病コロニーについて

情報源：(a) 村長 (b) 村人 (c) 自分 (d) その他

① コロニーの正式名称 (a)			
Jamuna Bandh Leprosy Colony			
② コロニーの住所 (a)			
Bishunupur leprosy colony, P.O Bishunupur, Dist. Bankra, West Bengal, India			
③ リーダーの氏名・連絡先 (a)			
氏名 Jogen Das 電話番号 9474459670 ・ハンセン病快復者 ・自身は職に就いておらず村人からのお金で生活している ・奥さんもハンセン病快復者で精神病を疾患している			
④ アクセス (c)			
最寄り : Bishunupur station から徒歩 5~10 分			
⑤ コロニー登記の有無 (a)			
無 * 政治闘争により滞っている。ウェストベンガル州ハンセン病コロニー共同体 SBKKS として登記はある。(SBKKS ; Sara Bangla Kustha Kalyan Samity)			
⑥ コロニーの土地の所有 (a) (b)			
コロニー			
⑦ 総家族数 (a)	⑧ 総戸数 (a)	⑨ ハンセン病快復者数 (a)	
58	50	大人 40 人/若者 21 人	
⑩ コロニー人口内訳 (a)			
成人男性	成人女性	子供	総人口
約 50 人	約 50 人	50 人	152 人
⑪ 建物・家の状態 (a) (c)			
土壁とわらぶき屋根でできた背の低い家からコンクリート作りのしっかりした家までばらつきがある。			
⑫ 建物・家の所有 (a)			
コロニー			
⑬ コロニー内の基本設備・施設 (a) (c)			
水道	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨水を溜めておくタンクが 2 つ (良質) ・ 自動くみ上げ式水道 (やや質は悪い) ・ 井戸 1 つ・ハンドポンプ 1 つ (質は悪い) 		
電気	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村人全員が使用可能。 ・ 大人 1 人につき毎月 Rs. 5 を支払っている。 		
道路	<ul style="list-style-type: none"> ・ namaste! の活動により一部整備された。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水時の排水のため一部の道に堀があり、日中でも村人がつまづくことがある。
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・初等教育はコロニー内で行われる。 ・SSK. School に一部の子供が通っている。
病院	<ul style="list-style-type: none"> ・初診、入院、定期健診はゴリプールハンセン病病院（コロニーから50km）、薬の処方等はビシュナプール国営病院で受けている。
⑭ 医療	
—	
⑮ 政府からの支援 (a)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ハンセン病に限らず、障害を持った人に対して毎月 12kg の米が支給される。 ・貯水タンクとトイレが 2015 年に設置されたが、現在トイレは管理がされておらず使われていない。 	
⑯ 民間団体からの支援 (NGO etc) (a)	
<ul style="list-style-type: none"> ・2年に1度、オルンシナ氏が代表を務めるFPSA (Friends P S Association) からブランケットの支給がある。 ・namaste!の活動としてトタン屋根の修繕、張替が行われた。 	
⑰ 近隣の人々との関係 (a)	
<ul style="list-style-type: none"> ・大通り沿いにコロニーが立地しており、時々人が訪れる。 ・差別は残っているものの、外部の人との関わる機会は増えつつある。 ・市場での差別は緩和されている。 	
⑱ 生計 (a)	
<ul style="list-style-type: none"> ・物乞い（最寄り駅だけでなく無賃で電車移動して他の地域でも物乞いをしている）（子供を連れてくることでお金をもらえる確率が上がるため子供の貸し借りをするときがある） ・政府の物資支援またはそれを売ったお金で生活 ・日雇い労働者 10 人（早朝に駅に集まって、選ばれると仕事を得るが、選ばれなければ物乞いをする） ・リキシャー引き（人力自転車）（収入が比較的高く、牛やヤギのほかインコを飼っている。室内にテレビやファンもある） 	
⑲ 宗教 (a)	
ヒンドゥー教 144 人、キリスト教 8 人	
⑳ 現在、コロニーの人々が必要としているもの (a) (b)	
<p>本当に必要なもの</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 28 件の家の屋根の修繕 2. 水場付近に排水用の導線を作る 3. 井戸の周りの舗装、整地 4. スキルトレーニング（就労支援） 	

5. 大学進学のための奨学金

㉑ キャンプをやる上で必要な病院情報(a)

(病院名) Bishunupur Government Hospital
 (住所) 不明
 (電話番号) 不明
 (距離) 不明
 (所要時間) 1時間 30分
 (車の手配方法) 可能

㉒ 教育普及率(a)

初等学校(1~4歳) 25人	中等学校(5~10歳) 12人	高等学校(11~12歳) 8人	大学 なし(3名の大学進学志望者がいる)	児童労働 19人 (学校に行きつつ働いている)
-------------------	--------------------	--------------------	-------------------------	-------------------------------

㉓ 村長をどう思うか(b)

知識が豊富で頼りになることから村長に選ばれた。困ったときは村長に相談する。

㉔ 備考

- ・外部から来た物乞いに対して、毎月政府から支給される米を分け与えていた。
- ・早朝から夕方まで多くの人が物乞いに出かけているため日中は人が少ない。
- ・子供の将来の為に金を捻出して牛やヤギを飼っている家庭もある。
- ・コロニー内にゴミが散乱している。
- ・独居老人の数人が死去。
- ・2016年2月にコロニーの子供が沿道で車にひかれて死去。コロニー中の人々が心に傷を負っている。これにより子供が飛び出さないための外壁の設置を求める声があがった。
- ・コロニーのすぐ近くに大通りがあり、交通量が多い。
- ・村人と二輪車の接触事故は多々ある。
- ・家庭により目に見えて生活水準の差がある。生活に関して助け合いや相互干渉はあまりない。
- ・調理用の共同スペース、小屋がいくつかある。
- ・1年前に開店した売店が1つと他にもう1つ売店がある。
- ・コロニーの人々が少しずつお金を出して建設した共有の集会所があり、テレビと神の像が置いてある。主に若者が使用している。

【現地協力者】

氏名 Arun Kumar Shinha
 固定電話 03244255662
 携帯電話 9434439979

メール fpsa.bankura@gmail.com

住所 Rabindrapally, Bishnupur, Bankra, 722122, West Bengal, India

・現地 NPO 団体 FPSA (Friends of Poor & Socially Abandoned) の創設者、現代表。

1-3. ワークプロジェクト報告

【実施内容】

《A》10軒の家屋の屋根の張替え

《B》井戸周辺の地面の舗装

【実施目的】

《A》屋根の老朽化に伴い、雨漏りが発生したり、強い風が吹くと、屋根自体が吹き飛んでしまったりする状態にあり、安心して生活を営むことができない状況にあるため、改善することで、心身ともに健康で暮らすことのできる環境を整える。

《B》コロニーの人々が水浴びをする際に必ず使用する井戸周辺の地面のコンクリートが老朽化によって割れているため、滑ったり、ケガをしたりする危険性がある状態を改善することで安全に水浴びのできる環境を整える。

【裨益者数】

《A》修理する家屋に住むコロニーの人びと 28 名。

《B》コロニーに住む人々全員約 150 名。

【成果】

《A》家屋の形状や基礎に合わせたトタン屋根の中で、最も丈夫で長持ちするものを選び、且つ張り替え時には、それらをさらに強化する工程を組むことで、耐久性を高めることができ、安全に暮らすことのできる環境を整えることができた。

《B》余ったセメントなどの資材で、コロニーの人びと全員が利用する井戸の周辺の地面の陥没や割れを舗装修理した。この結果、ハンセン病快復者や子供たちがけがをすることなく安全に水浴びができる環境を作り出した。特に地面の舗装作業は、コロニーの一部の人びとと共に行うことで、今後同じような問題が起きたときにコロニーの人びと自ら修繕することができるノウハウを得てもらうことができた。



1-4. その他のプロジェクト報告

進学応援プロジェクト

【概要】 当プロジェクトは2016年3月より始動した、コロニー初の大学進学者を貸与という形で金銭的・精神的支援を行うプロジェクトである。今回の渡航では、被支援者である3人の学生の大学通学の確認、大学訪問、支援条件である、コロニーの子供たち向けのボランティアティーチングが正しく行われているかの調査を行った。

【裨益者】 ハンセン病快復者の子供世代にあたる18~19歳の男子学生3人。

【成果】 裨益者全員が、通学、自主勉学に励み、できることやボランティアティーチングが予想よりも定期的に日常的に行われていることが確認できた。さらに、大学訪問することで、学生3人が意欲的に大学で勉学に勤しむ姿を確認することができた。このまま活動を継続させて行ければ、ボランティアティーチングやコロニー初の3人の学生の大学進学によって、コロニーの他の親世代の人々の教育に対する意識の高まりを期待できると感じた。



エンターテイメントプロジェクト

【概要】 当プロジェクトは、コロニーの人々と活動者である日本人学生の交流を深め、また周辺住民に対するハンセン病の啓発活動を目的とした、コロニー内でのパーティを開催するプロジェクトである。

【裨益者】 コロニーの人々全員（約150人）

【成果】 コロニーの人々ほぼ全員が参加してくれ、大いに盛り上がることができた。特に積極的に進学応援プロジェクトで支援している学生3人が中心となって運営に参加してくれた。また、音楽や日本人学生が踊ることを聞きつけコロニーを訪れる近隣住民もいたため、目的を達成できたと考える。

